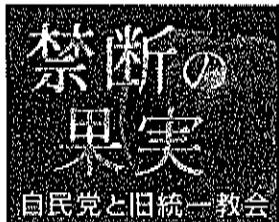


選挙で自民と一体化



中

ウェブサイトで発言を確認、翻訳した。サイトはその後、削除された。自民党本部は「発言を把握しておらず、回答できない」としている。

自立のは選舉での実績に触れた部分だ。中曾根康弘政権下で衆参同日選となつた1986年7月、衆院で自民党は追加公認を含め304議席を獲得し圧勝。文氏が88年2月に選舉を振り返った言葉が、冒頭の一文だ。

多くの信者を通選活動に従事させていたと取れる発言もある。「統一教会は怖いです。

「中曾根を首相にしたのは私は、福田（赳氏）を首相にしたのも私です。」あたか

教団の政治団体「国際勝共連合」の機關紙「思想新聞」は衆参同日選のあつた7月、「勝共推進議員130人が当選」と題する記事を掲載。当選した自民党や民社党の衆参両院議員計118人の氏名が並んでいる。

安倍晋太郎氏とは「契約」

「261人の国会議員を304人にしたのが私です。勝共議員が自民党内に180人います」。世界平和統一家庭連合（旧統一教会）創設者の故文鮮明氏は、自らが自民党を握っているとの自負を露さない。「摩羅理（の時代）から私が手を出した」と岸信介元首相と親しい関係が連続と続いたことを誇っている。

共同通信は、文氏が1956～2000年に信者に説教した講義を韓国語で収録した「文鮮明先生マルスム（御言）選集」全615巻を分析した。選集は文氏が死去した12年まで発行され、現在は絶版となつていて。日本の教団広報部が「御言選集で闇違いないが不法転載されている」とする



米ニューヨークで演説する文鮮明氏（上）と、衆院本会議場で話し合う安倍晋太郎外相（左下）と中曾根康弘首相（右下）のコラージュ（写真はAPなど）

も首相人事を握ったかのように発言を繰り返す文氏。次期首相と見込まれた岸信介氏の娘婿である安倍晋太郎元外相は「首相になつたら国会議員を選んで済南洞（文氏の邸宅）を訪問する」という契約書まで交わしたと主張している。

これが87年10月の自民党総裁選で、中曾根氏は竹下登氏を後継に指名。晋太郎氏の首相就任を切望していた文氏は「中曾根は私を裏切りました」「（晋太郎氏は）首相決定5分前に200億で売られた」などと眞偽不明の恨み節を重ねた。

元信者で金沢大の仲正昌樹教授（政治思想史）は、発言内容を「教団幹部から『お父さま（文氏）は』うおりしゃった」と伝えた内容と一致している」と指摘。教団の狙いを「勝共連合の活動を直民党と一体化して拡大し、最終的に日本の協力を得て南北朝鮮統一を果たすためだったのだろ」と分析した。

2006年、晋太郎氏の次男・晋三氏が首相に就任。文氏の発言は「う続く」「安倍晋三が首相ですわね。それは先生（文氏が自身を語る言葉）と近いですよ」。教団と党との関係は、安倍家3代に及んでこ。